

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.64 2010年12月号

NHK大河ドラマの「龍馬伝」がつい先日最終回でした。NHKの大河ドラマといえば、ここでとりあげられた人物ゆかりの地が一躍観光名所になるなど、かなりの影響力をもった番組です。いうまでもなく「龍馬伝」は幕末に活躍した坂本龍馬の物語でしたが、龍馬ゆかりの地では観光客が増えたり、龍馬を特集した番組や書籍が増えたりと、今回もやはり反響は大きかったようです。坂本龍馬は小さかったころ、泣き虫で寝小便たれ、どんな大人になるのか周りから心配されるような人だったようです。実際、大人になってからも同時代の英雄である西郷隆盛や桂小五郎などと比べて、活躍し始めた年齢が遅く、かなりの晩成型だったようです。その龍馬が作った和歌に次のようなものがあります。

世の人はわれを何ともいわばいえ 我がなすことは我のみぞ知る

意味は読んだそのままですが、周りから誤解されることの多かった龍馬らしい歌です。しかしその言葉どおり、当時大変仲の悪かった薩摩藩と長州藩に同盟を結ばせることに成功し、約300年間続いた徳川幕府を倒すきっかけを作ったのは龍馬でした。また、同時代の人と比べて大変変わった考え方をする人だったようで、「竜馬がゆく」の著者の司馬遼太郎さんは龍馬のことを「維新史の奇蹟」と書いています。周りがなんと言おうと自分の考え方や信念にてらして正しくないものは正しくないと言い、一方で、周りの言うことが正しいと思えば素直にそれを取り入れることができるというのは、よほど人間が練られていないと難しいものです。

龍馬が活躍したころの徳川幕府は、外国の圧力に屈してそれまでの鎖国を解いて次々と開国していったことから、そこに危機感を持ったいわゆる志士たちの思いが明治維新へとつながっていきました。中国やロシアの圧力に悩む現在の日本には、はたして龍馬のような人物は出てくるのでしょうか？

さて、今年ももう12月です。時間のたつのが年々早くなっているように感じるのは、年齢のせいでしょうか。今年もみなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。来年もみなさまにとって良い1年でありますように。

